

若者の賑わいを生み出す居場所づくり（概要版）

鹿角市政策研究所 研究員 五日市 栄光

- ・若者の転出拡大と転入の減少による、地域活力の減退が大きな問題。
- ・市内の交流拠点の事例から課題を整理し、若者の居場所づくりに資する施策を提言。
- ・サードプレイスは目的交流型、社交的交流型、マイプレイス型の3つに区分される。
- ・高校生・大学生が行った交流の場の調査では、市内の居場所として、公共施設、スポーツ施設、公園、コワーキングスペース、飲食店などが挙げられている。
- ・高校生の居場所：学校、コモッセ
- ・高校生・大学生が求める居場所の要件：学校近くで寄り道感覚、入りやすい雰囲気、安価、長居可能、会話・遊び・気分転換、Wi-Fi 環境アリ

若者の賑わいを生み出す居場所づくりに向けた政策提言

- 目的交流型：（ねらい）「楽しさ」を新たに生み出す。
 - ・①まちなか「バスケットボールパーク」設置：観客を巻き込みながら空間の賑やかさへ。
 - ・②かつの産業未来創造会と連携し、社長をキーマンとしてイベント実施（まちなかオフィス利用）：顔見知りを増やし、若者の探究と企業活動を結び付ける（若者と企業の交流）。
 - ・③若者と行政を結ぶプラットフォーム「（仮称）シン・ヤングアフター5 ワーク委員会」：行政が支援する若者サークルの代表者の加入、人材育成やキャリア形成を後押し。
 - ・④「ドレスルーム」の利用（高校生向け）：二十歳のつどいや地区ごとの年祝いの継承を見据え、ハレの日を体験・経験。
- 社交的交流型：（ねらい）「人を介した居心地の良さ」を居場所づくりに活かす。
 - ・⑤「秘密基地」をテーマとした「ノマドベース」設置（高校生向け）：寛げる・落ち着ける雰囲気、デジタル環境を確保しながら、若者の活躍を後押し。
 - ・⑥こどもの遊び場：スタッフの人数と施設の広さのバランスに注目し、1種類の遊び場を広くする。→死角が減り、注意が届くようになる。
- マイプレイス型：（ねらい）「静かな密」を作り出す。
 - ・⑦⑧コモッセ内に学習空間「（仮称）テスト勉強ルーム」を用意したり、親子レク利用を促したりすることで、同じ目的の人が集まり、密度を高め、自由な空間利用が可能。

（図表 1）区分別に見る鹿角市に必要な若者の居場所

